

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

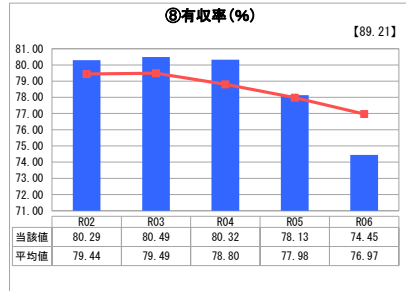
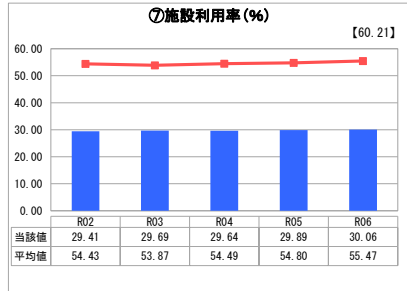
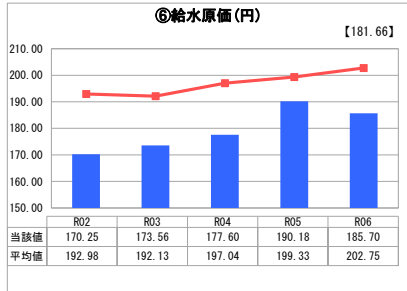
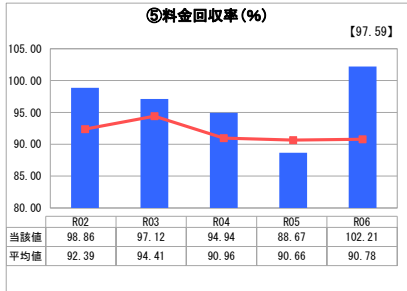
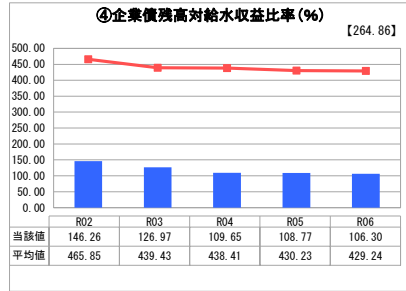
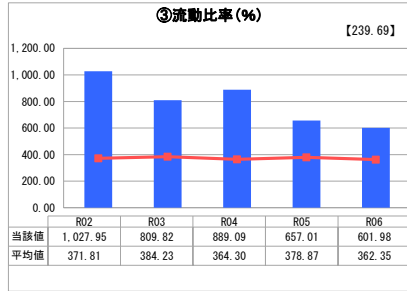
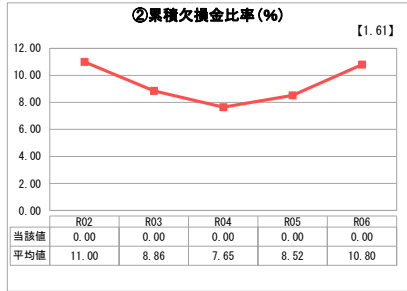
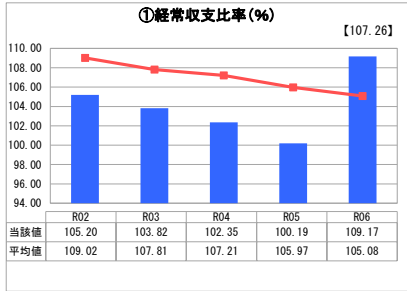
福島県 猪苗代町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり客単料金(円)	
-	89.34	94.99	4.400	

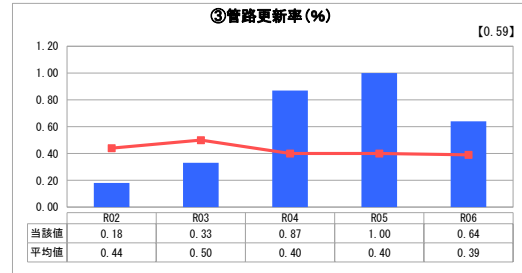
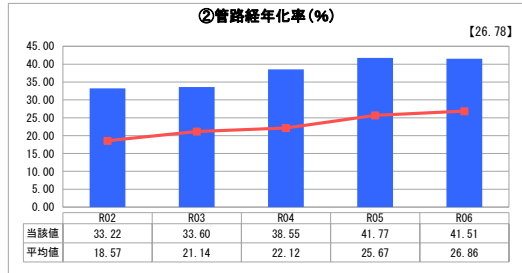
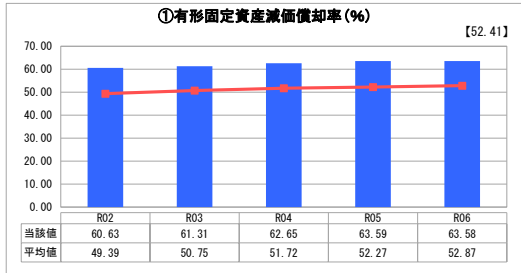
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,552	394.85	31.79
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,793	178.53	66.06

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

令和6年12月の料金改定により経常収支比率が改善したが、修繕の先延ばしや更新投資に充てる財源が確保されていないため、経営改善に向けた更なる取り組みが必要である。

企業債残高対給水収益比率については、類似団体の平均値より低くなっているが、施設・管路の更新を先送りしたため、今後は経年老化した施設・管路更新のため適正な投資が必要となる。

給水原価は、施設や管路の更新を先送りしているため、修繕費用等が高まっているが、適切な更新による修繕費削減と維持管理費の削減を行い、経営改善につなげる。

施設利用率については、適切な施設規模を検討していく必要がある。

有収率が減少しているため費用をかけた水が収益に結びついていないので、耐用年数を経過した管路の更新を計画的積極的に行い漏水削減につなげる。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体の平均よりも上回っており、適正な更新が行われなかったことにより法定耐用年数に近い資産が、類似団体より多い。今後は老朽化した施設・管路等の更新が必要となる。

管路経年化率は、第3次拡張事業（昭和53年から昭和62年）で整備した資産の一部が既に法定耐用年数に達しているため、類似団体の平均を大幅に上回っており、早急な経営改善の実施や投資計画等の見直しにより、施設・管路等の更新が必要。

管路更新率は、2.5%の場合ですべての管路更新に40年かかる。今後は、耐震化も含め老朽化度合に応じた施設・管路等の更新が必要。

### 全体総括

料金改定により経常収支比率は改善したが、人口減少や資材高騰に応じた適正な料金水準を算定するとともに、老朽化した施設や管路更新において優先順位や施設の統廃合等適切な投資規模を予測して計画的な更新事業を行うため、早急な経営改善の実施や投資計画等の見直しを行わなければならない。